



2015年6月22日

プレスリリース

一般社団法人 日本原子力学会

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、多くの方々が犠牲となられ、また被災されましたことについて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

一般社団法人日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる学術・技術専門家集団として社会への情報提供を行うため、本会の主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。

今回は、6月19日に開催した一般社団法人日本原子力学会通常総会において選任されました新会長・副会長の紹介です。

新会長に上塚寛氏が就任

第37代会長 上塚 寛（うえつか ひろし）

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）特別顧問



【略歴】北海道大学大学院工学研究科修士課程金属工学専攻終了

日本原子力研究所入所、

JAEA 経営企画部部長、同東海研究開発センター原子力科学研究所長、

同センター核燃料サイクル工学研究所長、理事、2015年4月より現職

【主な専門】原子炉材料、核燃料、原子炉安全研究

【会 長 挨 拶】

平成23年3月11日の東京電力(株)福島第一原子力発電所事故から4年以上が経過しました。日本原子力学会は、この事故を原子力の専門家集団として防げなかったことを真摯に受け止めて深く反省し、学会としてのあり方を根本的に問い直すとともに福島関連活動（福島復興支援活動、事故解明、事故プラントの廃止措置など）に本会の総力を挙げて取り組んできました。今後も本会が果たすべき責務を常に問い直しつつ、福島特別プロジェクトと廃炉検討委員会を中心とした福島関連活動に積極的に取り組んでまいります。

昨年4月に国のエネルギー基本計画が閣議決定され、その中で原子力発電は重要なベースロード電源と位置づけられました。また、本年4月には2030年時点での望ましい電源構成（ベストミックス）として原子力の比率を22～20%と見込んだ案を経済産業省が公表しています。原子力発電が今後のベースロード電源としての役割を担っていくためには、安全性や核燃料サイクルに係る課題に対する真摯な取り組みによって国民の信頼を着実に得ていくことが重要であると考えます。本会は、原子力分野の研究者・技術者集団として、他学協会の専門家との協働を図りつつ、「環境の保全と社会の発展」に寄与する調査研究活動を積極的に進めてまいります。

なお、副会長には下記の3名が就任いたしました。

上坂 充（東京大学）、田中隆則（(一財)エネルギー総合工学研究所）、森 冶嗣（北海道大学）

●記者会見のご案内

6月24日(水)11:00より日本原子力学会会議室(港区新橋2-3-7 新橋第二中ビル3F)において新旧会長の会見を行いますので、ご参加くださいますようお願いいたします。

以上